

未来に響け 子どもたちの心のステージ

学校・地域・行政が連携することで実現した夢のコラボレーション企画
舞台を通じて成長する子どもたちと、陰で支えた大人たちの感動のステージを追った

御前崎市制施行10周年記念
スクラムこどもミュージカル公演
開催日:11月16日 会場:御前崎市民会館



①



②



③

①みんなで入念に台本を読み込むことから練習は始まった ②ダンスや歌など、何度も繰り返すことで一体感が増していった ③本番前、緊張の面持ちの出演者に化粧を施すスタッフ。舞台にはこういった裏方の支えが欠かせない ④恐竜を全身で表現する寺田詩織さん。本番前の緊張がうそのように、子どもたちは舞台上で躍動した

④

感動のカーテンコール

ミュージカルが終わり、子どもたちが再び舞台上上がると、誰とはなしに手拍子が始まった。やがて手拍子は会場中に響き渡り、舞台上の子どもたちを包み込んだ。

御前崎市制施行10周年を記念して企画された「スクラムこどもミュージカル」は、出演者、舞台スタッフともに市民中心に構成した御前崎市初の試みだ。総監督は第一小学校の小林健教諭、助監督に相良小学校の大石敦史教諭を迎え、出演者には市内小中学校から児童生徒20人が参加。舞台を支えるスタッフとして、教員や保護者など約40人が協力し、プロジェクトはスタートした。

ミュージカルの演目は宮西達也作「おれはティラノサウルスだ」。作品の選定理由について、小林総監督は「親子の愛情や相手を思いやる心が盛り込まれた、誰もが感動できる物語です。それだけに出演者が感情をうまく表現しないと、観客に伝わりにくい難しさもあります」と語った。

思いを紡ぎ、一つの物語へ

7月中旬から始まった練習。台本の読み合わせやダンス、演技など、初めて経験することばかりで悪戦苦闘する子どもたち。周りで見ている大人たちから「頑張って」「もっと大きな声で」と、激励が飛び交う場面も度々あった。

毎週練習を繰り返すごとに、徐々に